



秋川流域

2021.3.19

ジオの会通信

VOL. 7

秋川流域のジオサイト⑦ サンドイッチ岩



サンドイッチ岩

秋川本流、五日市橋下の河床には、新第三紀中新世の五日市町層群の地層が露出している。この写真の場所は、高尾凝灰岩部層にあたり、緑がかった凝灰岩質の砂層と泥岩の互層がほぼ垂直になっていて、下流側にむかって新しい地層が重なっている。どんな力が働いて地層が直立したのか、想像力がかきたてられる場所だ。日本の奇岩 100 景に選ばれている。

〈目次〉

秋川流域のジオサイト⑦	・・・・・・・・・・	1
活動報告	(事務局) ・・・・・・・・・・	2
委託調査の報告	(内山孝男・池田美智子・青谷知己・田野倉勝則) ・・	2～5
会員リレーエッセイ	(中田美穂子) ・・・・・・・・	6
これからの行事予定	(事務局) ・・・・・・・・・・	6

これまでの行事

「コロナ禍」にともなう緊急事態宣言が発令されているため、会の活動も大きく制限されています。しかしながら、会員の意気は軒高で、事務局会やテーマ別の委託調査においては、三密を避けながら活動を継続しています。

- ・ 12月～3月 全体会 ※コロナ禍のため中止
- ・ 12月 8日（土）事務局会
- ・ 12月15日（火）フィールドワーク（生田緑地と宿河原）下見（参加5名）
※フィールドワークは残念ですが、1年延期とします。
- ・ 1月11日（月）事務局会
- ・ 1月 総会 1月15日発送 1月末までに書面決議回収（42/44 で可決）
- ・ 2月 9日（火）事務局会
- ・ 3月 9日（火）事務局会

2021年度総会報告（書面決議）

報告 事務局（池田）

活動方針が決定しました。

コロナ感染症のため、今年度の活動の方向性を決定する大事な総会を、会員の皆さんが一堂に会する形で行えなかったことはとても残念でした。しかし、事務局会より書面送付提案した議案書に対して、多くの方が賛成してくださり2021年度の活動方針が決定したことをご報告いたします。秋川流域ジオの会の会則に基づいた今年度活動方針により、1年間の活動を行っていきます。

次に、2点のお知らせをします。1点目は昨年度の活動報告に、千葉達朗氏の講演会が抜けていたことです。申し訳ありませんでした。2点目は監査についてです。会則8条に監査2名を置くとありますが、会が始まったばかりということでこの2年間は監査を置かずに来ました。今年度の役員を決める際に監査2名を選出する予定です。以上お知らせです。

更に、多くのご意見をお寄せ頂きありがとうございました。ジオの会の活動が大きく広がっていくイメージが湧いてきました。まだまだ、コロナ禍にありますが、皆さんと活動を続けられることを楽しみにしています。

課題別調査活動（委託調査）の成果や発見

課題別の調査活動は、5分野において進めています。3月末には今年度の成果をまとめてE-ツーリズム推進協議会に報告します。ここでは、調査活動での成果について、各リーダーから報告いただきます。

（1）秋川・平井川流域の秩父帯における海洋プレート層序（内山）
メンバーは安藤、石井、内山、鈴木、竹内、武智、富士(50音順敬称略)です。2020年度は二つの調査に取り組みました。一つは日の出町三ツ沢の焼岩沢の支流「岩垂沢」及びその周辺の地質調査や岩垂沢に分布する岩石、石灰岩化石について調べました。岩垂沢の地質はメランジュ状に付加体に取り込まれた異地性岩体で、塩基性火山岩や石灰岩、及びそれらが混在した多彩な岩石が見られます。

もう一つは日の出町細尾のミタゴ沢入口部に遺る石灰岩採石遺構と周辺の地質です。石灰岩採石遺構には他の遺構では見られない矢穴列(工具痕の一種)やダスターシュート式石材搬出遺構が遺っている点で貴重。

（2）五日市一川上構造線の実態を追う（池田）

昨年度は戸倉城山から東に向けて、五日市一川上構造線の実態を追って調査を進めた。今年の冬は、戸倉

城山から西方面に向けて調査を展開した。檜原街道にそった、追分・荷田子・青木平周辺を中心に3回、更に西に向け檜原村元郷から弘沢の滝までを1回、合計4回の調査を実施した。

五日市の追分から荷田子への途中に矢柄橋がある。現在使われているのは新矢柄橋であるが古い矢柄橋を西に向かって歩くと、橋の真ん中あたりで左側に大きな露頭を見ることができる。地図で確認すると矢柄沢が秋川に合流する地点である。大きな露頭の左右の岩石の様子は、砂岩と泥岩という明らかな違いが見られ、そこに五日市一川上構造線が通っているのだらうと推定された。その他にも秋川の川原に下り、兩岸の岩石の様子を調べたり、走行や傾斜を測ったりという調査を進めることができた。

「調査をする」という目で歩くと、様々な発見があり、普段何度も歩いていた道も違ったものに見えてくるのが、とても新鮮で楽しい経験となった。更に追分地区にある「喫茶・ギャラリー追分」で美味しいコーヒーを飲みながらまとめができたのも良かった。



左
矢柄橋付近
の断層露頭



右
本宿付近の
断層露頭
厚いガウジ
が見られる

(3) 化石から探る中新世五日市海の古環境 (内山)

メンバーは安藤、内山、長岡(50音順敬称略)です。2020年度は伊藤和弘氏採集の79点、遠藤求氏採集の72点、奥山聡氏採集の119点の、いずれも五日市町層群産出化石について、種の同定、計測、写真撮影をしてデータベースに組み入れました。伊藤氏のものは日の出町落合だけから産出するクモヒトデなどを含み、遠藤氏と奥山氏のものは台風19号後に小和田橋下の地層から多産した縦肋のある二枚貝や小型の巻貝を多数含む点で重要な資料です。

(4) 「留原層が堆積した頃の五日市を復元する」 (青谷)

「五日市むかしむかし」が発行された時代、留原層は、はるか昔(数十万年前)に存在した五日市湖にたまった堆積物という概念がありました。本当にそうなのかを検証するため、2009年度から、あきる野市の自然環境調査・地質部会では、五日市盆地をくまなく歩いて、留原層の分布や年代を明らかにしてきました。その結果は、約10万年前以降に堆積した湿地や溪流性の堆積物ではないかというものでした。

この結果をふまえ、シオの会では、五日市盆地に発達する段丘の形成について、どの川がいつ、どういう順序で今の地形を作ったのかを明らかにしようとしています。三内川沿いに発達する小机の段丘をはじめ、南側の留原周辺や戸倉周辺にも足をのばして詳しく調べてきました。台風19号によってできた2か所の新しい崩壊地の崖からは、新たなデータもとることができました。だんだんイメージがはっきりしてきました。4月の調査日は、室内作業を中心にして、ポーリングデータや地形データを用いて、より確かな地形の形成史を考える予定です。

(5) 「幻の茗荷平雨乞の滝」 (田野倉)

檜原村最奥の廃村茗荷平部落の更に先の沢に雨乞の滝がありますが、今年の台風で道が消えてしまっています。昨年3月には茗荷平部落巡検を2回行い好評でした。その時も滝の対岸からその方向を確認しただけで全容は見ることはできずにとどまっています。新年度は継続して誰もがたどり着ける方策を検討中。まさに幻の滝たる所以です。近くには白岩八坂神社の石灰岩大露頭などもあり、地学的にも歴史的にも興味が尽きません。以下に一回目巡検に参加した志村さんの感想を載せます。皆様新年度からどうですか。

「地元の語り部、田倉さんの話は貴重なものでした。茗荷平にかつて存在した住まいも2件を残すのみで他は跡形もなく、草に埋もれた畑の跡が、かすかに集落の姿をとどめていました。説明を聞いてわかった茗荷平集落、また訪れてみたいです。」

会員のページ リレーエッセイ⑦ (中田美穂子)

茗荷平廃村を歩く

ジオの会に入って1年、初めての巡検参加を楽しみにしていた。茗荷平入口で車を降り、いきなり急坂を登る。しばらく歩くと廃屋があり、臼や杵、蕎麦のこね鉢等が放置されているのが外から見えた。更に奥へと進み、岩を叩いて感触と音の違いを確かめ、又クリノメーターの使い方を教わり、地質図と見比べながら先へと進む。

天照大神宮では、石灯籠が石灰岩でできていて、その中に礫が混じっている事を確かめた。茗荷平宿跡の近くには馬の水飲み鉢があった、何の為の宿だったか?と想いをめぐらす。

一番奥の家の庭では踏の臺1個が私たちを迎えてくれた。ここでお弁当の時間です。まだ続く一日ですが、振り返ると地下の地層や構造線を楽しく思うには時間がかかりそう。地上の花や木、生活などは目に見えて楽しい、こちらからジオをゆっくり覚えていきたいと思いました。



これからの行事

○全体会

- ・3月19日(土) 中止

※コロナ禍の拡大により全体会の開催は見合わせます。今後の情報は適宜メールリストで発信していきますのでご了承ください。

- ・4月17日(土) 15:00~17:00 全体会 (開催予定) 戸倉城山テラス2F
- ・5月以降 詳細は4月全体会で確認します。

○ジオツアー(会員限定)

- ・4月11日(日)「檜原村 小林家と縄文遺跡」

○研究テーマに合わせた調査会や室内実習は、随時行っていきます。4月より、新しいテーマや新メンバーを加え、活動を進めていきますので、奮ってご参加ください。

会員・会費

秋川流域ジオの会では、随時会員を募集しています。秋川流域の大地の豊かさと面白さを学び、伝える活動にぜひご参加ください。現在の会員数は44名です。

☆年会費 2,000円 (会計年度 1月~12月)

☆振込口座 西武信用金庫 五日市支店(024) 普通口座 1173684 秋川流域ジオの会 会計鈴木肇

秋川流域ジオの会通信 vol.7

2021年3月19日発行

発行 ; 秋川流域ジオの会

発行人; 内山孝男 編集事務局; 青谷知己

連絡先; 〒197-0814 あきる野市二宮 1300-97 池田美智子 t e l 080-5470-1588